



はなもも

駐屯地司令要望事項 地域と国民のために

令和三年 新春

駐屯地司令要望事項

「地域と国民のために」



第38代 古河駐屯地司令
陸将補 仲西 勝典

駐屯地の隊員諸官、令和三年を新たな気持ちで迎えたことと思う。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により緊急事態宣言が発出され、駐屯地においても諸行事が中止となったが、このような状況下にあっても、各部隊等は感染症拡大防止の処置を適切に実施し、訓練等に励んできた。

今年も昨年同様の状況が懸念されているが、隊員諸官は基本基礎を徹底し、引き続き健全性を維持し、実力の保持に努め、明るい未来を信じ、任務にまい進してもらいたい。

令和三年も、駐屯地一丸となって難局を乗り切り、素晴らしい年にしよう。

第三十八代古河駐屯地司令に仲西陸将補着任

第三十八代古河駐屯地司令に仲西勝典（なかにし かつのり）陸将補が令和二年十二月二十二日付で熊本地方協力本部長から着任した。古河駐屯地に登庁した仲西駐屯地司令は、第一施設団長として着任式を挙行し、第一施設団隊員に対し着任の辞を述べ、統率方針、要望事項を徹底した。続く、二十三日の臨時駐屯地朝礼において、駐屯地隊員に対し「地域と国民のために」を駐屯地司令として要望し、「この古河駐屯地が光り輝く存在として、地域と国民の負託に応えられるよう駐屯地一人ひとり持てる力を結集して、地域と国民のために日々努力していこう」と訓示した。



訓示する仲西駐屯地司令

豊田司令離任 体育学校長へ



豊田前駐屯地司令 豊田第一施設団長の交代に伴う離任行事が十二月二十一日執り行われた。部隊長等との記念撮影後、駐屯地隊員に見送られた豊田前司令は、十二月二十二日付で朝霞駐屯地にある陸上自衛隊体育学校長へ栄転した。

令和三年駐屯地新成人祝賀行事を挙

令和三年一月十五日、古河駐屯地新成人祝賀行事を駐屯地会議室で実施し、新成人二十名（当日不在者五名を含む。）の前途を祝った。祝賀行事は、国歌斉唱、記念品贈呈、駐屯地司令式辞と続き、これまで以上に責任と自覚ある行動をし、皆の期待に応えられるよう一生懸命取り組み」と挨拶し、終了した。



新成人代表挨拶



成人の主張

午後には場所を一号営庭に移し、新成人の主張を行った。新成人は、駐屯地司令を始め多くの先輩隊員が見守る中、個人の目標や親への感謝を大声で発表した。



駐屯地ホームページで動画をチェック!

定年退官予定者の紹介



業務隊長 前澤曹長 4月8日付
支処 平 准尉 2月9日付



団付 星野曹長 4月11日付
器材隊 平井1曹 2月19日付

永年の勤務、お疲れさまでした。

新成人紹介

成人の仲間入りをした隊員です。おめでとうございます！



101施器 梅田士長 101施器 平 士長 101施器 白井1士 101施器 福田士長 団付 原 1士 団付 森 士長



支処 塩澤士長 支処 大森士長 支処 関士長 夕車中 塚本1士 夕車中 川名士長 101施器 瀧澤1士



基通隊 中川士長 会計隊 岸 士長 会計隊 新宮士長 高射中 村上士長 施直支大 吉田士長 施直支大 首藤士長



優勝 第102施設直接支援大隊

綱引大会

一月十八日、各部隊等を六チームに編成しトーナメント方式で勝敗を競った。
【結果】
優勝 第一〇二施設直接支援大隊
準優勝 第一〇一施設器材隊



第1位 第101施設器材隊本部付隊

花壇コンクール

十三コの花壇が、美しさを競った。
【結果】
第一位 第一〇一施設器材隊本部付隊
第二位 第二施設本部付隊
第一〇一施設器材隊 架橋中隊

異動者等の紹介

【十二月二十二日付転出者】
関東補給処古河支処 一等陸佐 平野 善之(座間)
【十二月二十二日付転入者】
関東補給処古河支処 一等陸佐 北島 靖彦(福岡)
【十二月二十一日付 任期付自衛官】
第二〇一施設器材隊本部付隊 二等陸曹 澤田 亮子

【二月一日付 再任用自衛官】

第二〇一施設器材隊架橋中隊 陸士長 小山 夏輝
転出者、お疲れ様でした。
転入者等の皆さん、よろしくお願ひします。



古河自衛隊協力会による梅苗木の寄贈

はもトピ

この「はもトピ」は、駐屯地や地域のトピックスを幅広く紹介するコーナーです。今回は、駐屯地の梅について紹介します。
駐屯地東門付近にある梅林は、昭和四十年に古河自衛隊協力が寄贈した三百本の梅の木の一部です。

梅が実をつけ始めたのは、この梅干を作り、隊員食堂で活用したこともあったよかったです。

クラブ紹介

駐屯地では、三つのクラブが活動中です。皆さんも始めてみませんか。

銃剣道監督 101施器 河村曹長(内655)

軟式野球部監督 施直支大 新井田曹長(内553)

綱引部監督 施直支大 中山曹長(内523)

曹友会活動



臨時献血支援

各部隊等の活動紹介



整備をする隊員



力走する隊員



処長による現地指導



表彰式

関東補給処古河支処は十一月二十五日及び十二月二日の二日間、霞ヶ浦駐屯地において実施された「関東補給処持続走競技会」に参加し、総合優勝を果たした。支処は昨年、一昨年と総合準優勝であったが、三年ぶりに総合優勝として優勝旗を奪還し、雪辱を果たすことが出来た。

今回の競技会はコロナ禍での大会となり、例年とは違い公道での応援が制限されているの孤獨なレースとなったが、選手たちは今大会まで計画的に練習をしてきた自分を信じ、仲間を信じ、一人ひとりが心を一つにして力走し、総合優勝を勝ち取った。

また、十二月十日から十九日までの間、秋季東富士（北・南地区）演習場定期整備において補給整備支援を実施した。

支援期間中、部隊の要求に基づいた部品補給及び補給品輸送を適時適切に行うとともに、野整備部隊との連携を図り整備を実施する等、施設器材の可率率向上に寄与した。

この間、関東補給処長による現地指導を受け、補給品の在庫状況及び整備支援が円滑に機能している状況について確認を受けた。

古河駐屯地業務隊は十一月十二日、駐屯地において新型コロナウイルス患者とインフルエンザ患者が同時発生した想定での不測事態対処訓練を実施し、隊の指揮所能力、衛生科の対処能力の向上を図るとともに、十一月十八日には松戸駐屯地において実施された埼玉・栃木グループ駐屯地業務隊相互研修に参加し、需品学校の業務隊業務の取組等を研修して古河駐屯地におけるサービス向上の資を得た。

十一月二十日には、総監部幕僚副長（行政）泉陸将補による駐屯地基盤現況把握を受け、作戦支援基盤としての古河駐屯地の現況、新型コロナウイルス感染症対策及び将来の女性増勢等における部隊ニーズ等についての報告を行った。

また、十二月十三日に駐屯地全停電対処訓練を実施したほか、三四半期駐屯地施設の整備として、女性自衛官隊舎玄関目隠しフィルム貼付け、高射管理棟壁補修、非常用発電機設備保守点検、場外着陸場定期検査、支障樹木の剪定等計二十六件の整備を実施し、勤務・生活環境の不断の改善を図った。

四半期も隊員の生活環境向上に向け、全力で取り組んでいく。



駐屯地全停電対処訓練



不測事態対処訓練



庁舎外壁補修



行政副長現況把握



ロードローラ天蓋部の研磨



消火器取扱要領展示

第一〇二施設直接支援大隊は十一月九日、整備隊工場地域において、火災予防週間に合せた初期消火訓練を実施した。

本訓練は、火災発生時の初期消火要領を練成し、隊員の初期消火能力の向上を図ることを目的としており、当初、普通火災・油火災・電気火災に対応した消火器の説明を行った。次いで消火器及び消火栓を使用した放水要領等について展示説明及び実習を実施し、初期消火要領について周知徹底能力の向上を図った。

また、十二月十日から十八日までの間、東富士整備支援隊として、秋季東富士（北・南地区）演習場定期整備支援を実施した。

本整備支援隊の編成にあたり、平素の直接支援態勢を保持しつつ、ストロブや野外炊具の整備のため全般支援大隊の一部（需品整備機能）を配属した。

期間中、施設・車両・需品の各器材を計二二四件整備し、被支援部隊の任務達成に寄与した。



整備隊長優秀隊員褒賞土肥3曹（写真左）



放水要領実習

各部隊等の活動紹介



第1位 本部付隊



第2位 架橋中隊



第9位 特殊器材中隊

第10一施設器材隊は十一月二十四日から三十日までの間古河駐屯地で実施された第二回駐屯地花壇コンクールに参加した。

採点結果は花壇コンクール対象十三コ部隊中、本部付隊が総合順位「第一位」、架橋中隊は「第一施設団本部付隊との同率」「第二位」、特殊器材中隊は「第九位」となった。花壇のテーマは各中(付)隊の花壇担当者が考案し、本部付隊は「一致団結」、架橋中隊は「BRIDGE・GARDN」、特殊器材中隊は「躍進」とそれぞれ設定し、限られた経費及び準備期間の中ではあったが「苗・肥料及び裝飾資材」の購入から、配置、植え付けまでを行い、最後まで花のコンディションを調整しながら選考当日を迎えた。第一位となった本部付隊花壇係の長、白井二曹は「本部付隊の皆が協力し花壇を完成させるとともに、テーマ通り花壇内に様々な色の花を集め、美しく咲き誇る花で団結の心を表現できたことが嬉しかった」と話した。

来年度も駐屯地の勤務環境向上の為、今年度以上の花壇を作成していきたい。

第三三七高射中隊は、十一月二十三日から二十七日までの間、東富士演習場において、第1次高射中隊等野外行動訓練検閲を受閲した。

これまでの訓練の成果を最大限発揮し、年度当初の目標である「概ね優良」の成果を獲得した。本検閲を通じて得た成果を今後の部隊の基礎として、しっかりと継承していきたい。

中隊訓練及び本検閲を通じてご支援をいただいた全ての部隊に感謝するとともに、今回得た成果を基礎として、しっかりと継承していきたい。

第三〇一ダンブ車両中隊は十一月十日から十九日(前段)及び十二月十一日から十八日(後段)までの間、令和二年度方面秋季演習場定期整備に五十五名が参加した。相馬原演習場では観測台及び取付道の構築を担任するとともに、東富士演習場で各部隊の担任する機道路整備等を支援し、演習場機能の維持・向上、長期安定使用に寄与して任務を完遂した。

両演習場の整備を通じて隊員の車両操縦技術及び施設機械操作能力の向上も併せて図る事ができた。



隊容検査



検閲終了後の記念撮影

第三二〇基地通信中隊古河派遣隊は、十一月九日から十二月二十三日までの間、指揮システム換装に伴うネットワークの配線作業を実施した。電話班長の綿密な計画、周到な準備により遅滞なく構成を完了する事ができた。

また、十一月十八日には第一〇五指揮所通信大隊計画による衛星器材等の電波通路調査支援を実施した。併せて衛星器材構成の為の展開・構成要領の研修があり、衛星器材取扱要領の概要を修得することができた。

今後このような機会をとらえて回線構成能力の向上を図っていく。



観測台取付道の構築(法面の整形作業状況)



砕石の運搬・敷均

第三四一会計隊は、十二月二十七日令和二年度方面会計隊隊務視察を受察した。

年度間実施する訓練・検査等を総合的に判断し決定される「隊務優秀」を獲得するべく、真見三佐を核心として引き続き任務に邁進していく。



天井裏の配線作業をする隊員



衛星通信器材の展開

第三二〇基地通信中隊古河派遣隊は、十一月九日から十二月二十三日までの間、指揮システム換装に伴うネットワークの配線作業を実施した。電話班長の綿密な計画、周到な準備により遅滞なく構成を完了する事ができた。

また、十一月十八日には第一〇五指揮所通信大隊計画による衛星器材等の電波通路調査支援を実施した。併せて衛星器材構成の為の展開・構成要領の研修があり、衛星器材取扱要領の概要を修得することができた。

今後このような機会をとらえて回線構成能力の向上を図っていく。



隊務視察記念



持続走競技会で力走する山田1士



勤務に専念する森田1士

九月八日付で配置された森田一士は契約係として、山田一士は会計係として勤務・訓練に毎日奮闘している。